

情報漏えいの人的要因に対する対策研究

研究分野: ユーザブルセキュリティ、サイバーセキュリティ

キーワード: セキュリティ対策行動促進、ヒューマンファクター、行動経済学

貢献できるSDGsの区分:



情報システム学部 情報セキュリティ学科 教授 寺田 剛陽

教員情報URL <https://sun.ac.jp/tera-take/>

研究概要

サイバー攻撃検知やアクセス制御の技術は高度化し、組織マネジメントのガイドラインは洗練されてきているにもかかわらず、個人・機密情報の漏えい、詐欺被害、ランサムウェアなどによる業務停止の報道は後を絶たない。

その主な要因の1つに、ITシステムを利用する人間の不合理さにある。具体的な行動としては誤操作や権限設定ミス、ルール違反などであり、その背後には攻撃手口に関する知識不足のほか、作業忘れや対策先延ばし、正当化などがある。

本研究ではこういった人的要因による被害発生を減らすため、人間工学などの観点から被害の発生点(メールソフトやサーバ管理画面、アプリなど)における「不親切さ」を抽出し、それを補うツールを開発することで、人間の行動原理に沿ったITシステムの実現をめざす。

産学連携の可能性(アピールポイント)

- ①セキュリティポリシー順守状況と人間工学的観点に基づく対策行動促進ツールの提案・開発
- ②従業員生産性を犠牲にしない日常的な情報リテラシー教育ツールの提案・開発
- ③ビジネスメール詐欺検知ツールの提案・開発

外部との連携実績等

- ・ 共同研究・委託研究: エムオーテックス株式会社(2023~)、総務省(2013~2016)
- ・ 講師: 株式会社富士通エフサス(標的型メール訓練、2022)、中央大学 JEITA IT講座「電子社会と情報セキュリティ」(2017)、FUJITSUファミリー会関東支部 セキュリティ対策講座(2014,2015)
- ・ IWSEC(International Workshop on Security) 実行委員(2015)